

おめでとう！！**Amalfi** 波乱の第7戦を制して今季2勝目 年間での上位進出も見えてくる。

だが、今回の誰もが認める主役は **EarlyBird** だ！！ (写真も E 艇が巻頭を飾ります)



年間ポイントレース第7戦は9月8日、真夏を彷彿させるような強烈な日差しの下で開催された。風は弱いながらも艇を押すだけのパワーはあると判断され、定刻にスタートホーンが鳴らされた。

スタートで **Constanze** はラインの中央から、誰にも邪魔されずに悠々と上マークを目指していく。

この様子を見ながら、「今日のレースは **Constanze** の独り舞台だな」と勝手にレースの進行を読み、記者は記事の下書きを考え始めていた。そして予想とおり第1マーク、そして第2マークと **Constanze** は着々と後続艇との差を広げながら快走していく。**Constanze** にしてみれば、TCFの差など問題にもしない、余裕の走りであり、差である。



だが異変はこの後、第3マークへと向かうレグで生じた。心地よく感じていた風が、上マーク付近でパタリと止んでしまったのである。運営艇は慌てて東海面にへと駆け付けてみた。すると、どうだろう。西海面の第2マーク付近には小波が残っているが、東海面では風となっているではないか。ここまでトップを快走していた **Constanze** はこの無風ポケットに陥ってしまっていたのである。これから今回のドラマが始まることになるのである。

運営艇では、S旗を掲げてフィニッシュラインを設置して、各艇の到来を固唾をのんで待つこととなる。

それでは、この後を時間の経過と共に再現してみよう

- 12:00頃 フィニッシュラインまで約100mのConstanzeは完全に漂流状態にある。このころ下マークを回航し、僅かに残る風を捉まえAmalfiとioが一気にConstanzeに迫ってくる。Calipso艇とBartolomeは下マーク回航後は北への舵を切り、再び2艇でマッチレースを始めている。
- そして、レースはやめた！（と見えた）EarlyBirdは南海面に残る風を利用して、北港への帰路を急いでいた。（記者にはこう見えたのであるが、結果から言うと、どうやら違っていたらしい。）
- 12:15頃 Amalfiは、漂流するConstanzeの横を、笑みを隠しながら静かに抜いて行く。続いて、ioもConstanzeに迫り、このまま1、2フィニッシュかと思われる流れであった。Constanze上はもはや諦め顔である。そして、CalipsoとBartolomeは、風の無い北海面でカタツムリのようなマッチレースを繰り広げている。記者にも、両艇はさすがにConstanzeは抜けないと感じられた。この2艇は何をしているのか。そして、帰路を急ぐEarlyBirdはと見ると、フィニッシュラインの延長線上を遥かに東へ越えた位置から起死回生・一発大逆転のタックを仕掛け、何とフィニッシュラインに向かっているではないか。記者もこの時が、EarlyBirdはやる気満々でレース継続中と気づいた衝撃の瞬間であった。
- 12:30過ぎ だが、Constanzeを追い越したAmalfiにも神様は平等であり、フィニッシュまで50mの地点で、こちらもConstanze同様に辛抱を命じ、ioもConstanzeの付近で漂いながら、耐えている。
- そして、風の神様はEarlyBirdに微笑みかけたのである。漂流している先行艇団がEarlyBirdを見失っている間に、大外の南コースから舞台裏を一気に駆け抜けて、雄叫びを上げながらのファーストホームとなった。風の神様の悪戯か、神童EarlyBirdかと思える大ドンデン返しであった。続いて悔しい顔のAmalfi、さらに疲れ果てた表情のConstanze、最後にioがフィニッシュとなった。
- 13:00頃 そして日曜昼ドラに全く登場しなかった艇が2艇ある。CalipsoとBartolomeである。この両艇は、昼ドラの裏番組よろしく、スタートからずっとマッチレースを続け、最後はタイムリミットに間に合わないという、まるで新喜劇のようなレースを繰り広げられていた。
- スタート時には、双方が上下の^{かみしも}関係に拘り、どっちもタックをせず、結局リミットマークまで上り切れないという素人芸を見せ、その後も風の無い裏庭の北海面で再びマッチレースを繰り広げ、最後にはタイムリミットのホーンを浴びるといふ、「N●Kのど自慢」なら鐘一つと言えようか。僭越ながら、マッチレースは程々にと申し上げておきたい。



それにしても、今回の EarlyBird の走りは見事の一言に尽きる。読者もご承知のとおり、チームは春に親とも言うべき近藤氏を失うこととなった。大黒柱を失ったチームは、どこか歯車が噛み合わず結果が出ていなかった。記者も故近藤氏には言い尽くせぬ程お世話になっており、EarlyBird の走りには内心残念な思いを持っていた。だが、今回の9回2死3ボール2ストライクからの逆転ホームランで、チームは本来の走りを取り戻し始めた。新たな体制を固めたチームはもう大丈夫である。いよいよそのパワーを発揮し、輝き始める時がきたのである。レース後の食事会でも、「もう後塵は拝しない」と意気揚々と乾杯を重ねておられた。大いに期待しよう。今日で EarlyBird は真に山崎アーリーとなったと言えよう。かならずや故人も喜んでおられるに違いない。記者は昔、EarlyBird に北港の白鳥と名付けた。今日は復活のお祝いとして、新たに白き忍者の名を贈ろう。



【編集後記】

今日の獲得ポイントで、各艇の年間成績は大きく動くこととなった。残る大会は2回。先頭を走る Constanze も安閑とはしておられないはずだ。ちょっとコース選択を誤り、成績を落とすと、大波乱を招きかねない。各チームの皆さん、大きな壺を獲得するチャンスは目の前にあるのですよ、気を緩めず頑張りましょう。



雄叫びを収めた後、片付けという現実戻った白き忍者である。

残念ながら優勝艇である Amalfi と裏番組で頑張っていた Bartolome の画がありません。ご容赦ください。では、次回またお会いしましょう。記者：ジェームス・U でした。